

## 公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	根ヶ山 光一	所属	早稲田大学人間科学学術院
研究集会等名称	公益社団法人日本心理学会 からだと発達研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)          会員 10 名 (うち認定心理士 0 名)          非会員 7 名 (うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等          (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)          本年度は、以下の4回の集会を開催し、参加者とからだと発達について多面的に捉え、活発に議論した。</p> <p><u>1回目集会</u>：日時：2012年6月9日(土) 15時～18時(場所：早稲田大学)          演題「離乳食の feed にみられる母子の行為調整」          講師：外山紀子(津田塾大学)          はじめに、根ヶ山氏が本研究会の発足の趣旨説明を行った後、外山氏が研究発表を行った。そこでは、母子3組の離乳食場面を縦断的に観察したデータ(離乳食開始直後から1年後まで)から、子どもの口・母親の手・母親の口の動きの頻度とパターンを分析し、母子間で巧妙な行為調整が行われていることが報告され、参加者と食発達と母子の自律性について議論した。</p> <p><u>2回目集会</u>：日時：9月22日(土) 15時～18時(場所：早稲田大学)          演題「発達の原点としてのからだと」          講師：根ヶ山光一(早稲田大学)          根ヶ山氏から、からだは、こころ、行動、発達、環境、生、といった諸問題を考える最重要な切り口であることについて、食や接触、事故といった視点から報告され、それらについて参加者と議論した。</p> <p><u>3回目集会</u>：日時：12月8日(土) 15時～18時(場所：早稲田大学)          演題「自己認知における行為主体感の役割とその発達」          講師：宮崎美智子(玉川大学脳科学研究所グローバルCOE研究員)          宮崎氏から、はじめに、遅延自己像認知に見る行為主体感の役割、次に、乳児における行為主体感の獲得過程について報告され、自己認知におけるからだの役割について参加者と議論した。</p> <p><u>4回目集会</u>：日時：2013年2月9日(土) 15時～18時(場所：早稲田大学)          演題「乳児における音声発達の基礎過程」          講師：江尻桂子(茨城キリスト教大学)          江尻氏から、喃語の出現メカニズムについて、従来、規準喃語の出現には聴覚の発達が重要であることが強調されてきたが、自身の研究成果より、聴覚系だけでなく、運動発達も関与している可能性があることが報告され、からだとことば(音声)の関連について参加者と議論した。</p>		